脇野沢川水系河川整備基本方針

平成１６年１２月

青　　森　　県

目　　次

１．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 ---------- １-１

(1) 脇野沢川流域の現状---------- １-１

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針---------- １-３

２．河川整備の基本となるべき事項 ---------- ２-1

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 ---------- ２-1

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 ---------- ２-1

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項 ---------- ２-2

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項 - ２-2

１．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 脇野沢川流域の現状

脇野沢川は、下北半島の南西、脇野沢村と佐井村の境に位置する湯ノ沢山の南側に源を発し、左右の支川を合わせ、脇野沢村のほぼ中央を貫流した後陸奥湾に注ぐ、流域面積 29.0km^2、流路延長 10.0km の二級河川である。

流域は全て脇野沢村に含まれ、流域人口は約 2,000 人と村全人口の約 7 割が集中している。河口部には脇野沢村市街地が形成されており、村役場や病院などの公共公益施設が立地するなど、脇野沢村の社会・経済活動の中心となっている。

脇野沢川流域は市街地近くまで山地が迫っており、降雨流出の流域貯留が少なく、かつ流入時間が短い。このため、脇野沢川では比較的短時間に洪水流出が発生し易く、河床勾配が緩くなり河道が大きく屈曲している河口部では、脇野沢村市街地が洪水による氾濫被害を特に受けやすくなっている。

脇野沢川の河川改修工事は、昭和 39 年 4 月の融雪出水による被災を契機とし、平和橋上流 430m 区間を対象に、計画高水流量 Q=120m^3/s で昭和 39 年度～41 年度に災害関連事業が実施された。これ以外では、中上流部で災害復旧事業や県単独事業などにより逐次護岸整備が進められてきた。しかし、昭和 43 年 8 月洪水で脇野沢村市街地のほぼ半分が浸水被害を受けたのを始めとして、昭和 44 年 8 月、昭和 50 年 7 月、平成 2 年 8 月洪水など度々洪水被害が発生した。このため、脇野沢村市街地の洪水被害の防止を目的に、河口部から館山橋上流区間 1,700m において、平成 3 年度に広域一般改修事業に着手した。近年の平成 10 年 8 月洪水では、脇野沢村市街地内で河道満杯となるなど住民の洪水被害に対する不安は大きいものがあり、改修の早期完成が切望されている。

河川の水質については、「生活環境の保全に関する環境基準」に基づく指定はないが、平成５～13 年に実施した水質調査結果から脇野沢村市街地内の BOD75％値は約 1mg/l 程度であり、良好な水質が保たれている。また、中流部で実施された「水生生物による水質調査」結果からもきれいな水が保持されていることが分かっている。

河川水は、農業用水として１ヶ所の取水堰から取水され、約 7.0ha の農地へのかんがい用水として利用されている。

脇野沢川の上流部は、スギ植林地とブナ・ミズナラ群落等の広葉樹林からなる豊かな森林内を流れ、川幅は約 3～10m 程度、平均河床勾配は約 1/80 程度と急流である。良好な森林から流れ出る豊富で清澄な水と、落ち込み、瀬・淵が連続しサワグルミ等の渓畔林の生育する良好な渓流環境を有するため、ヤマメ、アメマスの渓流魚が多く見られ、それらを対象とし

た渓流釣りの利用がなされている。また、豊かな森林環境を背景に、本州最北端に生息するニホンザルや国の特別天然記念物のニホンカモシカなどの哺乳類、ミソサザイ、ルリビタキ、コガラなどの鳥類、ヤマアカガエルなどの両生類が生息している。

脇野沢川の中流部は、谷底平野に広がる水田の中を蛇行して流れる区間であり、川幅は約10～15m 程度、平均河床勾配が 1/180 程度と急勾配である。河床材料は砂礫が主体であり、寄州の形成が多く見られ、寄州上には、ツルヨシ等の草本類やシロヤナギ、オノエヤナギ等が生育している。中流部ではほとんどの区間で法勾配が 5 分の護岸が施工されているが、山付け区間ではサワグルミ、ハルニレ、カツラ等が生育する樹林地となっており、ヤマメ、ウグイ等が生息している。片貝（かたがい）地区では、子供たちによるヤマメ等の魚の放流が行われている。

脇野沢川の河口部には脇野沢村市街地が形成されており、また渡向橋（わたむかいばし）上流まで感潮域であるため、河道やその周辺に植生は少ない。河口から脇野沢橋（わきのさわばし）上流までは汽水域を形成しており、クロダイ、ボラ、チチブ等の魚類が確認されている。脇野沢橋上流は約 35m と広い水面でゆったりした流れとなっており、市街地内がハクチョウの越冬場所として利用され、地域のシンボルとして住民に親しまれている。脇野沢川河口部は、古くはヒバなどの木材の運材（＝カンリュウ（川流し））、貯木、タラ漁の小型船舶の係留場所（＝河港（かこう））としての利用、子供の遊び場などとして利用されていた。近年では、昔ながらの「河港」としての水面利用や散歩などの利用がなされており、地域住民の脇野沢川に対する好感度や関心度は高いものがある。

このように、脇野沢川は農林漁業の基盤を支える重要な役割を有すると同時に、動植物の生息・生育の場、地域住民の憩いの場として愛着を持たれている河川である。

これらのことから、洪水から流域住民の生命・財産を守る「治水」、安定した水利用ができる「利水」、動植物の多様な生息・生育環境を保全し、うるおいとやすらぎのある水辺環境を形成する「環境」のバランスのとれた、安全で魅力ある川づくりが望まれている。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

脇野沢川の河川整備は、社会・経済活動の中心である脇野沢村市街地の治水安全度を早急に向上させる「安心して暮らせる川づくり」が重要であり、流域の豊かな自然環境や水辺空間を保全・創出し、住民が身近な自然と触れ合うことができる「自然豊かな川づくり」とバランスを取って進める必要がある。また、河川整備によって形成される豊かな水辺空間を中心とした「まちづくりと一体となった親しみの持てる川づくり」を進める必要がある。

そのため、脇野沢川における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、河川整備の現状、水害発生の現状、河川の利用の現況並びに河川環境の保全・復元を考慮し、関連地域の社会経済情勢の発展に即応するよう地域の発展に関わるまちづくり計画やふるさとの川整備計画との調整を図り、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図ってゆくものとする。

脇野沢川沿川の災害発生防止又は洪水被害の軽減に関しては、概ね 30 年に 1 回程度の確率により発生する洪水について安全な流下を図るものとする。さらに、整備段階あるいは計画規模を上回る洪水に対しては、ハザードマップ作成の支援、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備等、ソフト面の充実に努める。

河川水の利用に関しては、既得のかんがい用水、動植物の生息・生育環境の保全等、流水の正常な機能の維持に必要な流量の確保に努める。

河川環境の整備と保全に関しては、沿川の土地利用状況や諸計画を踏まえた上で、地域住民が水辺に親しめるような空間の整備を行うとともに、現在の良好な自然環境と景観とを保全しつつ、川と人とが共生できるような整備を行うものとする。特に、上流域は渓流釣り等で人々に親しまれ、また、サワグルミ等の河畔林があり、瀬、淵が連続し、清流を好むヤマメ、アメマスが生息する良好な自然環境の保全を図る。中流域は寄州が形成され、水際にはツルヨシ等が繁茂し、州の上にはシロヤナギ等が生育し良好な河川環境が残っており、ヤマメ、ウグイ等が生息する多様な自然環境に配慮した整備と保全を行う。下流域は脇野沢村市街地であり、散策、子供の遊び場などとして利用され、やすらぎの場となっていることから、人と河川のふれあいの場として、地域と調和したやすらぎと潤いのある環境の整備と保全を行う。

河川の維持・管理に関しては、堤防や護岸をはじめとした施設の機能が発揮できるよう維持するとともに、地域の人々が誇りと愛着を持つことができる脇野沢川とするため、河川愛護の浸透並びに地域の人々と協同で河川清掃などの河川管理を推進する。

２．河川整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、流域の状況及び県内他河川の計画規模とのバランスを総合的に考慮して、30年に1回程度の確率で発生する規模の洪水とする。

脇野沢川の基本高水のピーク流量は、昭和43年8月洪水、平成2年8月洪水等を主要な対象洪水として検討した結果、基準地点館山橋において230m³/sとする。

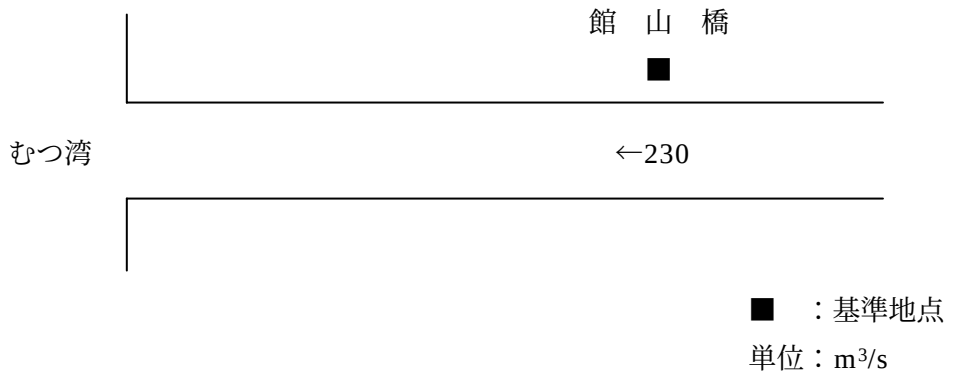
基本高水のピーク流量等一覧表

（単位：m³/s）

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
脇野沢川	館山橋	230	－	230

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

脇野沢川における計画高水流量は、館山橋地点において230m³/sとする。



脇野沢川計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次のとおりとする。

主要な地点における計画高水位・川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P.※(m)	川幅 (m)
脇野沢川	館山橋	1.46	+4.274	32.0

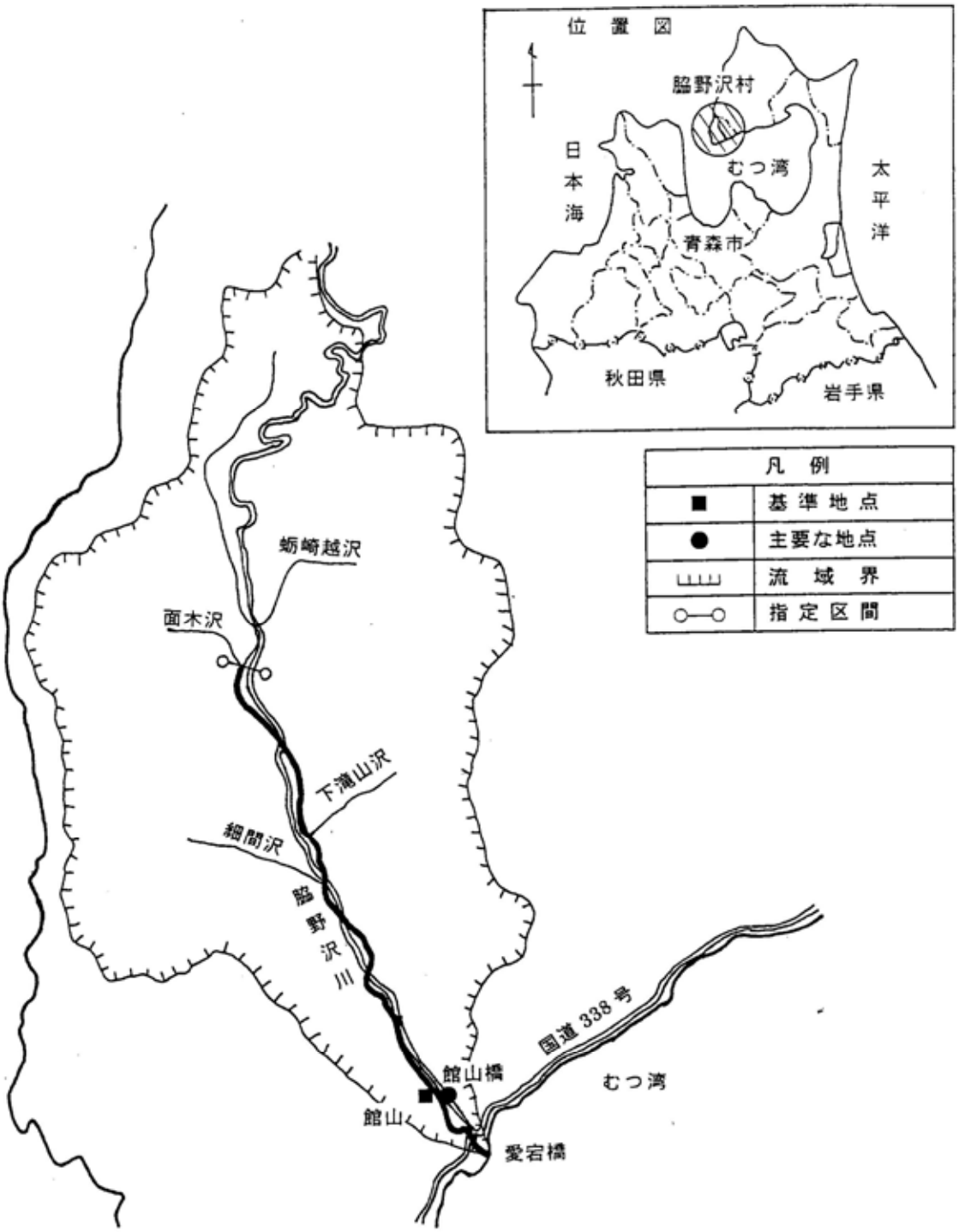
※T.P.：東京湾中等潮位（旧座標系）

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

脇野沢川は、沿川の農業用水として約 7.0ha の農地のかんがいに利用されているとともに、動植物など豊かな自然環境を育む源となっている。

脇野沢川では、魚類などの生息環境、良好な水質など、当水域特有の豊かな水環境は、流量変動を含めた現在の流況により維持されていると考えられるが、その要件を正常流量として定めるためには、さらなる検討が必要である。

今後は、良好な水環境が維持されるようモニタリングを行うとともに、正常流量設定に向けて引き続き検討を行うものとする。


位置図
脇野沢村
日本海
むつ湾
太平洋
青森市
秋田県
岩手県
凡例
基準地点
主要な地点
流域界
指定区間
蛎崎越沢
面木沢
下滝山沢
細間沢
脇野沢川
国道338号
館山橋
むつ湾
館山
愛宕橋